

大学／各学科の教育目標とカリキュラムの特色

【キャリア形成学部 キャリア形成学科】

ディプロマポリシー

卒業認定の方針
女性としての生き方・働き方を確立し、多様な業界・業種で活躍できる就業力を持つ女性として、以下の力を身につけ、学則に定める卒業要件を満たした者に学位を授与する。
(1) 知識・理解
①女性の多様な生き方・働き方と就労に関する諸問題を理解している。 ②社会、文化、人間に関する幅広い知識に基づき、多様性の価値を理解することができる。 ③企業や公共組織の経営資源と、それらのマネジメントに関する基礎的な知識と技法を理解している。
(2) 汎用的能力
①情報リテラシーを身につけ、日本語及び外国語を用いて的確に読み書きし、他者の話を聞き、自らの考えを他者に効果的に伝えることができる。 ②現代社会の諸問題について論理的に考え、解決方法を見出すことができる。 ③プロジェクト・マネジメントの技法を活用できる。
(3) 態度・志向性
①建学の精神「真実心」を理解し、他者と共生しながら自立することができる。 ②自己のキャリア形成の実現のため、生涯にわたって学び続ける力を身につけている。 ③セルフマネジメント力（自己管理力）及びチームマネジメント力（チームで協働する力）を身につけている。
(4) 統合的な学習経験と創造的思考力
①ビジネスや地域の課題を解決するための実践力及び新たな価値を生み出す創造的思考力を身につけている。

<p>(1) 建学の精神教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に生きる女性として思いやりの精神をもって、社会とかかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、「仏教の人間観」及び「京都光華の学び」を置く。
<p>(2) 基礎・教養教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な市民性の涵養や日本文化への理解をはじめ、幅広い知識と教養を身につけるために、必修科目及び複数領域にわたり選択科目を置く。 ・情報リテラシー、日本語活用力、英語による基礎的なコミュニケーション力を身につけるために、それぞれ必修科目または選択科目を置く。
<p>(3) 専門基礎教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・教養教育で実施する情報リテラシー、メディアリテラシー、日本語及び英語の能力を高める科目を置き、少人数による演習で授業を行う。 ・知性と感性を磨き、女性が生涯を通して働き続ける力として成長させるために、「女性エンパワーメント」の科目群を置く。 ・「ビジネス」「サービス」「ソーシャル」の分野の基礎知識を習得するために、選択必修科目を置く。 ・ビジネスや地域の課題を協働して解決して新たな価値を生み出す力を身につけるために、プロジェクトに関する必修科目を置く。
<p>(4) 専門教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ビジネス」「サービス」「ソーシャル」の分野の専門知識を習得するために各分野で選択科目を置き、専門知識を社会で活用して実践力を身につけるために専門実習（長期インターンシップ）の選択科目を置く。 ・外国語の運用能力向上や異文化理解を深めるために、セメスター留学、長期留学に関する科目を置く。 ・現代社会の諸問題とその解決方法を多角的に見出し、情報を発信できる力を身につけるために、「ゼミ」の科目群を置く。 ・自己のキャリア形成につながる就業力を高めるために、資格取得に関する選択科目として「専門関連」の科目群を置く。
<p>カリキュラムの実施方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題発見・解決力やチームマネジメント力を高めるために、PBL（Project-Based Learning／Problem-Based Learning）やアクティブ・ラーニングの授業方法を積極的に取り入れる。 ・学生の多様な学びを保証し、効果的な学びを実現するために、対面授業の他、メディア授業やハイブリッド授業を取り入れる。 ・クラスアドバイザーとしての役割を担う各学年のゼミの担当教員は、定期的に学生と面談を行い、履修状況、進路希望等を確認し、適切な履修指導を行う。 ・自主的、自律的な学習に欠かせないセルフマネジメント力を高めるため予習・復習を課し、学生の状況に応じて補講など授業外学習支援を行う。 ・ディプロマポリシーの能力形成を促す評価となるよう、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テスト、課題制作などで定期的に理解度・習熟度の確認を行い、その結果を学生にフィードバックするとともに、多元的な評価を行う。

入学者受け入れ方針
<p>本専攻では、仏教精神に基づいた深い人間理解と人間尊重の価値観を基盤とし、社会福祉専門職に必要な知識と技術を学び、社会貢献ができる女性を育成します。</p> <p>そのため、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに定める教育を受けるために必要な、次に掲げる基礎的な知識・技能及び関心・意欲を備えた女性を求めています。</p> <p>このような入学者を適正に選抜するために、教科（国語、英語）の試験、小論文、面接など多様な選抜方法を実施します。</p>
(1) 知識・技能
<ol style="list-style-type: none">1. 大学での学びを継続・発展しうるために必要な基本的な生活習慣を身につけている。2. 高等学校等までの「国語」、「英語」、「数学」、「探究」等の学習を通じて、聞く、話す、読む、書く、論理的に考えるという基礎的な知識・技能を身につけている。
(2) 思考力・判断力・表現力
<ol style="list-style-type: none">3. 身近な社会問題などについて、高等学校等までの学習で得た知識を活用して自分の考えを表現できる。4. 女性の生き方、働き方に関する諸問題に関心がある。5. 日本語、英語、数学、情報などの技能を修得して、コミュニケーション力を高めることに関心と意欲がある。6. プロジェクト等の実践的な学びを通して、思考力、判断力、問題解決力を磨き、思いやりを持って他者と協働できる人として成長したいとの意欲がある。
(3) 主体性・多様性・協働性
<ol style="list-style-type: none">7. ビジネス・リテラシーと組織マネジメントの基礎を修得して、ビジネスや公共の世界で活躍することに意欲がある。

【健康科学部 健康栄養学科 管理栄養士専攻】

ディプロマポリシー

卒業認定の方針
管理栄養士・栄養士としての力を身につけ、学則に定める卒業要件を満たした者に学位を授与する。
(1) 知識・理解
①管理栄養士に必要な知識を理解している。 ②管理栄養士に必要なとされる技術と指導力を身につけている。
(2) 汎用的能力
①管理栄養士として、個人および地域とのコミュニケーションを円滑に進める能力、指導者としてのリーダーシップを身につけている。 ②情報を収集、分析し、論理的な思考により、課題にあたることができる。
(3) 態度・志向性
①建学の精神「真実心」を理解し、他者と共生しながら自立することができる。 ②管理栄養士の専門性を深めるため、生涯にわたって学び続ける自己学習力を身につけている。
(4) 統合的な学習経験と創造的思考力
①管理栄養士として、予防医療学をもとにした栄養の指導を通して、健康の維持・増進のために地域社会に貢献できる力を身につけている。 ②健康科学に関わる幅広い知識や技能を学び、創造的な思考力を身につけている。

<p>(1) 建学の精神教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に生きる女性として思いやりの精神をもって、社会とかかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、仏教の人間観及び京都光華の学びを置く。
<p>(2) 基礎・教養教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な市民性の涵養や日本文化への理解をはじめ、幅広い知識と教養を身につけるために、必修科目及び複数領域にわたり選択科目を置く。 ・英語、情報リテラシー、日本語活用力による基礎的なコミュニケーション力を身につけるために、それぞれ必修・選択科目を置き、少人数による演習で授業を行う。
<p>(3) 専門基礎教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士としての専門基礎教育として Koka Healthy プロジェクト（健康プロジェクトⅠ）の科目を置く。 ・人間や生活についての理解を深めるとともに、社会や環境と人間の健康の関わりについて理解するために、公衆衛生学や健康評価に関する科目を置く。 ・人体について体系的に理解した上で、主要疾患の成因、病態、診断、治療等について理解を深めるために、人体の構造と生理、生化学、臨床検査・病理に関する講義科目とともに実験・実習科目を置く。 ・食品の各種成分を理解し、食品の加工・調理過程を通して栄養面や安全面への影響や評価について理解するために、食品学、調理学、食品衛生学に関する講義科目とともに実験・実習科目を置く。
<p>(4) 専門教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養の意義ならびに、身体状況や栄養状況に応じた栄養管理の考え方を理解するために、「基礎栄養学」ならびに、「応用栄養学」の科目群を置く。 ・健康・栄養状態・食行動・食環境に関する情報の収集と分析、それらを総合的に評価・判定し、栄養教育プログラムを作成する能力を修得するために、「栄養教育論」の科目群を置く。・傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うための栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的マネジメントの考え方を理解するために、「臨床栄養学」の科目群を置く。 ・地域や職域の健康・栄養問題とそれを取り巻く諸要因を分析し、さまざまな健康・栄養状態の者に対する適切な栄養関連サービスのあり方について理解を深めるために、「公衆栄養学」の科目群を置く。 ・給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経済面全般についてマネジメントを行う能力を修得するために、「給食経営管理論」の科目群を置く。 ・各専門分野に関わる知識についてさらに理解を深め、実践活動の場での課題発見と解決を通して管理栄養士に必要とされる知識と技能の統合を図るために、「総合演習」、「臨床実習」の科目群ならびに、健康プロジェクトⅡA、Bや卒業研究といった「専門発展科目」の科目群を置く。 ・食生活や運動に関わる資格取得に関する選択科目として「関連科目」の科目群を置く。
<p>カリキュラムの実施方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各専門分野の科目群においては、栄養士・管理栄養士に必要とされる知識と技能について理解するために、講義とそれに関わる実験・実習を学ぶ。 ・課題発見・解決力やチームマネジメント力を高めるために、PBL (Problem-based learning) やアクティブ・ラーニングの授業方法を取り入れる。 ・実践活動の場での課題発見と解決を通して知識と技術の統合を図るために、学外実習を行う。 ・自主的、自律的な学習に欠かせないセルフマネジメント力を高めるために、予習・復習を奨励する。また、資格取得に向けた課題の提出、対策授業などの学習支援を行う。 ・クラスアドバイザーは定期的に学生と面談を行い、履修状況、進路希望等を確認しつつ、適切な履修指導を行う。 ・ディプロマポリシーの能力形成を促す評価となるよう、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度・習熟度の確認を行い、その結果を学生にフィードバックするとともに、多元的な評価を行う。

入学者受け入れ方針
<p>本専攻では、生活習慣病の予防やチーム医療に関わる栄養管理について、知識・技術の資質向上を目指し、より実践的な管理栄養士を育成します。</p> <p>そのため、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに定める教育を受けるために必要な、次に掲げる基礎的な知識・技能及び関心・意欲を備えた女性を求めています。</p> <p>このような入学者を適正に選抜するために、教科（国語、英語、生物、化学）の試験、小論文、面接など多様な選抜方法を実施します。</p>
(1) 知識・技能
<ol style="list-style-type: none">1. 高等学校等までの学習を通じて、コミュニケーション能力の基礎的な内容を身につけている。2. 高等学校までの履修内容のうち、科学的思考力の基礎として「理科（生物、化学）」を身につけている。
(2) 思考力・判断力・表現力
<ol style="list-style-type: none">3. 人の健康の保持や増進に関する諸問題に関心がある。4. 医療・福祉現場やその他の施設における栄養管理・指導、チーム医療の実践等に高い関心がある。5. 臨地実習等の実践的な学びを通して、思考力、判断力、問題解決力を磨き、思いやりをもって、他者と協働できる人として成長したいとの意欲がある。
(3) 主体性・多様性・協働性
<ol style="list-style-type: none">6. 栄養士及び管理栄養士が社会に果たす使命や役割について理解し、その仕事を通じ社会に貢献しようという熱意と意欲がある。

【健康科学部 健康栄養学科 健康スポーツ栄養専攻】

ディプロマポリシー

卒業認定の方針
運動の指導力、栄養士としての力を身につけ、学則に定める卒業要件を満たした者に学位を授与する。
(1) 知識・理解
①健康運動実践指導者・栄養士に必要な知識を理解している。 ②運動と栄養の指導のための技術と指導力を身につけている。
(2) 汎用的能力
①運動と栄養の指導者としてコミュニケーションを円滑に進める能力、指導者としてのリーダーシップを身につけている。 ②情報を収集、分析し、論理的な思考により、課題にあたることができる。
(3) 態度・志向性
①建学の精神「真実心」を理解し、他者と共生しながら自立することができる。 ②健康運動実践指導者・栄養士の専門性を深めるため、生涯にわたって学び続ける自己学習力を身につけている。
(4) 統合的な学習経験と創造的思考力
①運動と栄養の指導を通して、健康の維持・増進のために地域社会に貢献できる力を身につけている。 ②健康科学に関わる幅広い知識や技能を学び、創造的な思考力を身につけている。

<p>(1) 建学の精神教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に生きる女性として思いやりの精神をもって、社会とかかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、仏教の人間観及び京都光華の学びを置く。
<p>(2) 基礎・教養教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な市民性の涵養や日本文化への理解をはじめ、幅広い知識と教養を身につけるために、必修科目及び複数領域にわたり選択科目を置く。 ・英語、情報リテラシー、日本語活用力による基礎的なコミュニケーション力を身につけるために、それぞれ講義科目を置き、少人数による演習で授業を行う。
<p>(3) 専門基礎教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養士としての専門基礎教育として Koka Healthy プロジェクト（健康プロジェクト I）の科目を置く。 ・社会や環境と健康の関わりについて理解するため、公衆衛生や健康管理に関する科目を置く。 ・人体について体系的に理解した上で、運動や環境に対する人体の反応や適応について理解を深めるため、人体の構造と生理、生化学、運動生理学に関する講義科目とともに実験・実習科目を置く。 ・食品の特性を理解するとともに、衛生管理の方法について理解するために、食品学・食品衛生学に関する講義科目とともに実験・実習科目を置く。 ・運動やスポーツに関する基礎的知識や健康との関わりについて理解するために、「スポーツと健康」の科目群を置く。
<p>(4) 専門教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の代謝と生理的意義を理解するとともに、身体状況や栄養状況に応じた栄養管理と各種疾患における基本的な食事療法を理解するために、「栄養と健康」の科目群を置く。 ・個人・集団および地域レベルでの栄養指導の役割や栄養に関する各種統計について理解するために、「栄養の指導」の科目群を置く。 ・給食業務を行うために必要な食事計画・調理を含めた給食サービスに関する技能を修得するために、「給食の運営」の科目群を置く。 ・健康を維持・増進するための運動指導の方法や競技力を高めるためのスポーツ指導の方法の基本を学び、プログラムの作成・実施・評価に関する技能を修得するために、「運動・スポーツ指導」の科目群を置く。 ・スポーツと栄養との関わりについて学び、運動実施者や競技者に対する栄養管理について理解を深めるために、「スポーツと栄養」の科目群を置く。 ・各専門分野に関わる知識の理解を深め、発展を図るために、健康プロジェクトⅡA、B や卒業研究といった「専門発展科目」の科目群を置く。 ・食生活や運動・スポーツに関わる資格取得に関する選択科目として「関連科目」の科目群を置く。
<p>カリキュラムの実施方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各専門分野の科目群においては、栄養士および運動・スポーツ指導に必要とされる知識と技術について理解するために、講義とそれに関わる実験・実習を学ぶ。 ・課題発見・解決力やチームマネジメント力を高めるために、PBL（Problem-based learning）やアクティブ・ラーニングの授業方法を取り入れる。 ・実践活動の場での課題発見と解決を通して知識と技術の統合を図るために、学外実習を行う。 ・自主的、自律的な学習に欠かせないセルフマネジメント力を高めるために、予習・復習を奨励する。また、資格取得に向けた課題の提出、対策授業などの学習支援を行う。 ・クラスアドバイザーは定期的に学生と面談を行い、履修状況、進路希望等を確認しつつ、適切な履修指導を行う。 ・ディプロマポリシーの能力形成を促す評価となるよう、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度・習熟度の確認を行い、その結果を学生にフィードバックするとともに、多元的な評価を行う。

入学者受け入れ方針
<p>本専攻では、生涯を通じた健康づくりのためのスポーツと栄養の指導者として、知識・技術の資質向上を目指し、より実践的なスポーツ指導者・栄養士を育成します。</p> <p>そのため、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに定める教育を受けるために必要な、次に掲げる基礎的な知識・技能及び関心・意欲を備えた女性を求めています。</p> <p>このような入学者を適正に選抜するために、教科（国語、英語、生物、化学）の試験、小論文、面接など多様な選抜方法を実施します。</p>
（１）知識・技能
<ol style="list-style-type: none">1. 高等学校等までの学習を通じて、コミュニケーション能力の基礎的な内容を身につけている。2. 高等学校までの履修内容のうち、科学的思考力の基礎として「理科（生物、化学）」を身につけている。
（２）思考力・判断力・表現力
<ol style="list-style-type: none">3. 人の健康の保持や増進に関する諸問題に関心がある。4. 運動指導現場において、生涯を通じたスポーツの実践指導や栄養指導、食育に高い関心がある。5. 臨地実習等の実践的な学びを通して、思考力、判断力、問題解決力を磨き、思いやりをもって、他者と協働できる人として成長したいとの意欲がある。
（３）主体性・多様性・協働性
<ol style="list-style-type: none">6. 栄養士及び健康運動指導士が社会に果たす使命や役割について理解し、その仕事を通じて、健康づくりの面で、社会に貢献しようという熱意と意欲がある。

【健康科学部 看護学科】

ディプロマポリシー

卒業認定の方針
高い倫理観を持って対象となる人々を尊重しその人々の権利を守る姿勢のもと、あらゆる場で生活する人々に対し健康の増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和に向けて看護の専門的知識と技術を修得し、根拠に基づいた看護実践を行うことができる。 保健・医療・福祉の動向を理解し、保健医療福祉チームの一員として協働し、看護職として継続的に研鑽する姿勢がある。
(1) 知識・理解
対象となる人を生活者として捉え、全人的に理解できる。 ①対象となる人を生活者として捉えることができる。 ②対象となる人を身体的、精神的、社会的側面等から多面的に理解できる。
(2) 汎用的能力
看護の専門的知識と技術を修得し、根拠に基づいた看護実践を行うことができる。 ①看護実践能力としての基礎的な知識・技術・態度を身につけている。 ②根拠に基づいたケアを計画し、実践できる。 ③あらゆる場で生活する人々の健康レベルに応じたケアを提供できる。
(3) 態度・志向性
高い倫理観を持って対象となる人を尊重し、その人々の権利を守ることができる。 ①人々の多様な価値観を理解し、尊重できる。 ②人々の権利を守ることができる。 看護職として継続的に研鑽する姿勢を身につけ行動できる。 ①自らの学習課題を明らかにできる。 ②主体的に学び続けることができる。
(4) 統合的な学習経験と創造的思考力
ユニバーサルな視野に立ち、保健・医療・福祉の動向に関心を持ち、保健医療福祉チームの一員であることを理解している。 ①他職種とコミュニケーションを図り、協働する意義を理解している。 ②看護ニーズの多様化に対応できる能力を身につけている。

カリキュラムポリシー

<p>看護学科のカリキュラムポリシーを以下とし下記（１）～（４）のように科目群を配置する。</p> <p>①対象となる人を全人的に理解するための科目を配置する。</p> <p>②高い倫理観を持って対象となる人を尊重できるよう、人間性を涵養するための科目を配置する。</p> <p>③看護専門職に求められる基本的な資質や能力を獲得するための科目を配置する。</p> <p>④あらゆる場で看護が提供できるよう健康段階や発達課題に応じた看護が実践できる能力を身につけるための科目を配置する。</p> <p>⑤対象がおかれた状況や環境に応じて、対象を中心としたチーム連携のあり方を身につける科目を配置する。</p> <p>⑥より良い看護ケアを提供するために、看護を探究し続ける能力を養うための科目を配置する。</p>
<p>（１）建学の精神教育</p> <p>仏教精神に基づく人間教育を建学の精神とし命を尊重し、相手を思いやる豊かな人間性を養うため「こころの教育」を基本とする</p>
<p>（２）リベラルアーツ教育科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 健全な市民性の涵養や日本文化への理解をはじめ、幅広い知識と教養を身に付けるために、必修科目および複数領域にわたり選択科目を置く。 情報リテラシー、日本語活用力、英語による異文化理解、基礎的なコミュニケーション力を身に付け高めるために、それぞれ必修・選択科目を置き、少人数による演習で授業を行う。
<p>（３）専門基礎教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 「人間の生活と社会」として『人体の構造と生理機能』『疾病の成り立ち』『診断と治療』などに関する科目を配置する。全人的に人間を理解すること、高い倫理性の修得のために『ホリスティックヘルス』や『生命倫理』などに関する科目を配置する。選択科目としては『女性と健康』などの科目を配置する。 人々の健康、生活支援のための理解のために『社会保障論』『公衆衛生学』『包括的ヘルスケア論』『専門職の連携』に関する科目を配置し人々の健康援助者としての基礎的知識を学ぶこととする。
<p>（４）専門教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 「看護の基礎」、「看護の展開」「看護の実践」、「看護の統合・発展」に区分した科目配置とする。「看護の基礎」では『看護学原論』『基礎看護技術』などの科目配置および仏教精神に基づく『仏教看護論』、『看護倫理』などの配置を行う。「看護の展開」では各看護学の専門領域に関する『看護学概論』『看護援助論』、さらに「看護の実践」科目として実践的体験により健康ニーズに適切に対応できる基礎的能力を修得するための『実習科目』を配置する。 「看護の統合・発展」では、さらなる看護学の専門性の幅を広げるために『看護研究方法論』『看護政策学』『看護管理論』などを配置する。それらを実践的に学ぶ科目として『卒論ゼミ』『統合看護学実習』の科目を配置する。また、グローバルな視野を広げることを目指し『国際看護』『災害看護』『コンテポラリーナーシング』『中医学の基礎』などの必修科目、選択科目を配置する。 保健師資格取得コースでは、看護師の資格に加え、選抜された学生に対して、地域の人々の健康の保持・増進のための保健活動を目指す専門職に必要な必修・選択科目を置く。 養護教諭一種免許の取得については、希望する学生に対して、養護教諭（一種）の取得に必要な教職課程の科目を置く。
<p>カリキュラムの実施方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題発見・解決力などを高めるためにロイロノートなどの学習支援アプリなどの ICT を活用した授業や演習の展開など AL（Active learning）の授業方法を積極的に取り入れる。 自主的、自律的な学習に欠かせないセルフマネジメント力を高めるため予習・復習など自主的、主体的な学習態度を身につけるための学習支援を行う。 臨地実習に関しては、臨地実習に連動する講義や演習の工夫、実習前・中・後の指導の向上、実習施設との連携・協力体制を図り効果的で実践的な学びを展開する。学生の学修習熟状況を多元的な視点で評価し支援につなげる。 クラスアドバイザーなどを中心に定期的に学生と面談を行い履修状況や進路希望などを確認し適切な履修指導や学生生活全般の支援を行う。

入学者受け入れ方針
<p>本学科では、仏教精神に基づく豊かな人間性及び高度な看護学の知識・技術及び倫理観を持ち、自立して取り組む実践者としての看護専門職として看護師・保健師・養護教諭を育成します。</p> <p>そのため看護学を学ぶために必要な要素として次に掲げる人材を求めています。</p> <p>これらの人材を適正に選抜するために、教科（国語、英語、生物、化学、数学）の試験、小論文、面接など多様な選抜方法を取り入れ実施します。特に面接においては、看護への関心や学ぶ意欲、コミュニケーション力、課題やストレスへの対処などについて確認します</p>
（１）知識・技能
1. 高等学校等で学ぶ基礎学力としての知識や技能を習得している人
（２）思考力・判断力・表現力
2. 課題解決のための論理的思考や判断力を持ち、行動できる人
（３）主体性・多様性・協働性
3. 様々な人とコミュニケーションを図り、他者と協調できる人 4. 人に対して関心を持ち、誠実に思いやりを持って向き合うことができる人 5. 看護学を学ぶ意志と意欲を持ち、主体的に学び続けることができる人

【健康科学部 心理学科】

ディプロマポリシー

卒業認定の方針
心理学の知見を生かし、自己を確立して社会で活躍できる女性として、以下の力を身につけ、学則に定める卒業要件を満たした者に学位を授与する。
(1) 知識・理解
①心について科学的、実証的に検討する方法を身につけ、人の心理と行動に関する法則性を客観的に理解する。 ②個人差・文化差といった多様性および人と環境との相互作用について心理学的に理解する。
(2) 汎用的能力
①心理に関する多様な情報を収集・分析し、問題を発見・解決する能力を身につける。 ②コミュニケーション力を高め、社会の中での実践的な関係形成能力（リエゾン力）を身につける。
(3) 態度・志向性
①建学の精神である「真実心」を理解し、他者に共感して、社会に貢献できる。 ②心理学の知識を実社会に援用し、協調・協働してチームワークを構築したり、他者を動員して目標の実現をはかるリーダーシップを適切に発揮したりできる。 ③自分の目標を明確に持ち、意欲的に行動するとともに、生涯を通して自らを高めることができる。
(4) 統合的な学習経験と創造的思考力
①心理学の学習を通して獲得した知識、技能、態度等を総合的に活用し、自らのキャリアに活かす力を養う。 ②心理学に関する高度な知識と技能を活かして、他の専門職と連携をはかり、対人援助の専門家として社会貢献する能力を身につける。

<p>(1) 建学の精神教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に生きる女性として思いやりの精神をもって、社会とかかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、仏教の人間観及び京都光華の学びを置く。
<p>(2) 基礎・教養教育 / リベラルアーツ教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な市民性の涵養や日本文化への理解をはじめ、幅広い知識と教養を身につけるために、必修科目及び複数領域にわたり選択科目を置く。 ・英語、情報リテラシー、日本語活用力による基礎的なコミュニケーション力を身につけるために、それぞれ必修・選択科目を置く。
<p>(3) 専門基礎教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理学への関心を喚起し、2 年次以降の学習への導入に関する科目を配置する。
<p>(4) 専門教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「専門応用」、「専門発展」、「心理学演習」に区分する。 ・「専門応用」では、上述の心理学科の DP の実現に向け、専門化された心理学理論に関する講義や、初歩的な実習を織り交ぜた演習科目を設定する。 ・「専門発展」では、DP をより高度に発展した次元で達成するための講義科目、演習科目、実習科目を設定する。 ・「心理学演習」では、専門演習と応用演習を置く。専門演習は本学科の DP を学生一人一人の将来像に相応しい形で実現できるよう設定する。また、応用演習は心理学に関する英語および専門知識をより高度に理解できるよう設定する。 ・上記系とは別に資格取得を可能とするため自由科目を設定する。 ・なお、心理学科 DP の習得に向けた各専門科目の関連性、体系性を明確にして学生に提示し、上記のように編成されたカリキュラムを実施する。具体的には、2 年次以降の「専門応用」「専門発展」の科目は、DP を達成するため、“基礎心理学”、“データ科学”、“人と現代社会”、“人間関係とコミュニケーション”、“心理援助”の 5 つに細分化され、その体系性については別途フローチャートに記載する。
<p>カリキュラムの実施方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複雑な現代社会における人の心の多様性と、人と人との相互的プロセスについての自己参与的な理解を促進する目的で、1 年次から 4 年次まで体系的に PBL 等のアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れた授業を行なう。 ・一人ひとりを大切にする教育を実践するため、クラスアドバイザーとしての役割を担う各学年のゼミ担当教員は、定期的に学生と面談を行い、履修状況、進路希望等を確認し、適切な修学指導を行う。 ・自主的、自律的な学習に欠かせないセルフマネジメント力を高めるため、予習・復習を課し、学生の状況に応じて補講など授業外学習支援を行う。 ・ディプロマポリシーの能力形成を促すため以下の精緻な評価を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①学期末テストのみならずレポートや小テストなどで定期的に理解度・習熟度の確認を行い、その結果を学生に適切にフィードバックするとともに、多面的な評価を行う。 ②公認心理師・保育士・保育心理士など資格取得を目指す学生については、その基盤となる科目修得や基礎学力の水準、面接などにより適性判断を行う。 ③学生の教育評価は、4 年間の学修成果は卒業研究・卒業論文で行い、個々の学生の教育評価は、GPA により判断する。

入学者受け入れ方針
そのため、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに定める教育を受けるために必要な、次に掲げる基礎的な知識・技能及び関心・意欲を備えた女性を求めています。 このような入学者を適正に選抜するために、教科（国語、英語）の試験、小論文、面接など多様な選抜方法を実施します。
（１）知識・技能
1. 高等学校までの学習を通じて、本学科の履修に必要な「国語」、「英語」の力及び適切なコミュニケーション能力を身につけている。
（２）思考力・判断力・表現力
2. 建学の精神である「思いやりの心」を持ち、他者とよりよく共生しようとする意欲がある。 3. 人の心と行動について強い関心と探究心を持ち、人の心理における普遍性と多様性を理解しようとする意欲がある。
（３）主体性・多様性・協働性
4. 心理学的知識やスキル、及びこれに付随する資格を通じて、将来、医療・教育・福祉・保育・産業など社会で自分らしく活躍したいとの意欲がある。

【健康科学部 医療福祉学科 社会福祉専攻】

ディプロマポリシー

卒業認定の方針
仏教精神と本学の建学の精神である「真実心=思いやりの心」に基づいた他者と共生できる精神性を養うとともに、グローバルな視野に立ちつつ、地域における社会福祉サービスの提供者としての専門性と、社会福祉の価値と倫理を修得した福祉人材として、以下の力を身につけた人に対して学位を授与する。
(1) 知識・理解
①社会福祉専門職として、社会動向の把握に努め、支援を必要とする人たちの多様性を理解し、地域における保健・医療・福祉の連携の重要性を理解し、良好な協働関係を構築することができる。
(2) 汎用的能力
①社会福祉専門職として、支援を必要とする人たちとその社会背景を分析し、女性の専門職としての強みを活かし、個別・集団の問題解決を論理的に思考することができる。 ②社会福祉専門職として必要な知識・技術を活用し、社会福祉を必要とする人たちを主体とした社会福祉実践方法を選択し、計画・実行することができる。
(3) 態度・志向性
①仏教精神に基づく社会福祉専門職としての自覚を持ち、社会や他者に積極的に貢献することができる。 ②社会人として必要なコミュニケーション能力や創造的思考力、問題発見解決力などの基礎的能力を養い、主体的に取り組むことができる。
(4) 統合的な学習経験と創造的思考力
①社会福祉専門性を活かし地域における保健・医療・福祉の連携のもと、地域社会に貢献できる力を身につけている。 ②女性としての視点を活かし、地域社会の問題に対して創造的思考力を発揮させ解決を図ることができる。

<p>(1) 建学の精神教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に生きる女性として思いやりの精神をもって、社会とかかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、仏教の人間観及び京都光華の学びを置く。
<p>(2) 基礎・教養教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な市民性の涵養や日本文化への理解をはじめ、幅広い知識と教養を身につけるために、必修科目及び複数領域にわたり選択科目を置く。 ・仏教精神に基づいた社会福祉専門職の養成を行うため、本学の校訓である「真実心」への理解や社会生活者としての倫理観および人間理解などを学ぶ科目群を置く。
<p>(3) 専門基礎教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門基礎科目では、社会人としての確かな社会人基礎能力を有する社会福祉専門職を目指すために「人間と社会」の科目群を置く。 ・現代社会において医療と福祉の連携の現状、今後の展開について習得するために「医療と福祉」の科目群を置く。 ・医療、健康、看護、福祉の専門職性について学びを深めるため、健康科学部共通、医療福祉学科共通の科目群を置く。
<p>(4) 専門教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の多様な事象に対して社会福祉的視点から相談援助が行える知識・技術の習得を目指し、「社会福祉の基礎、展開」の科目群を置く。 ・現代社会の社会問題・生活問題に焦点をあて、個人や家族への支援活動を中心とするマイクロレベルから、地域を対象とするメゾレベル、制度や政策を考察するマクロレベルに至る多様なレベルから理論的、実践的な探求を行い学びを深める「社会福祉の応用」の科目群を置く。 ・社会福祉士、精神保健福祉士といった対人援助職として求められる専門性を習得することを目的として「社会福祉の発展」の科目群を置く。
<p>カリキュラムの実施方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題発見・解決力やチームマネジメントを高めるために PBL (Problem-based learning) や AL (Active learning) の授業方法を取り入れる。 ・ディプロマポリシーの能力形成を促す評価となるよう、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度、習熟度を確認を行い、その結果を学生にフィードバックするとともに、多角的な評価を行う。 ・クラスアドバイザー及び同様の役割を担うゼミ担当教員は、定期的に学生と面談を行い、履修状況、進路希望等を確認し、適切な履修指導を行う。要支援学生については、関係部署と連携し、修学のための適切な対応を行う。 ・自主的、自立的な学習に欠かせないセルフマネジメント力を高めるために、予習・復習を奨励する。また資格取得に向けた課題の提出、対策授業等の学習支援を行う。 ・専門分野の科目群については、知識と技術の理解と習得に向けて講義と演習、実習を関連付けながら学ぶ。社会福祉現場実習では、実習施設との連携・協力体制の強化により、効果的な学習を図る。

入学者受け入れ方針
<p>本専攻では、仏教精神に基づいた深い人間理解と人間尊重の価値観を基盤とし、社会福祉専門職に必要な知識と技術を学び、社会貢献ができる女性を育成する。</p> <p>そのため、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに定める教育を受けるために必要な、次に掲げる基礎的な知識・技能及び関心・意欲を備えた女性を求める。</p> <p>このような入学者を適正に選抜するために、教科（国語、英語）の試験、小論文、面接など多様な選抜方法を実施する。</p>
（１）知識・技能
<p>1. 高等学校までの「国語」、「英語」等の学習を通じて、本専攻の履修に必要で適切なコミュニケーション能力を身につけている。</p>
（２）思考力・判断力・表現力
<p>2. 建学の精神である「思いやりの心」を持ち、社会的支援が必要な人々を理解することができる。</p> <p>3. 身近な生活問題からグローバルな社会問題にわたって、関心がある。</p>
（３）主体性・多様性・協働性
<p>4. 社会福祉専門職としての能力を修得し、問題解決や社会貢献に主体的に取り組みたいとの意欲がある。</p>

【健康科学部 医療福祉学科 言語聴覚専攻】

ディプロマポリシー

卒業認定の方針
言語聴覚士としての力を身につけ、言語・聴覚・嚥下等に障がいのある人々の機能の回復・獲得をはかり、個々の状態に応じたコミュニケーション能力の向上と社会参加を支援できる専門職としての基礎的能力を習得している者に学位を授与する。
(1) 知識・理解
①言語聴覚士として言語聴覚障害学に基づいた知識・技術を段階的に学び系統的に理解する。 ②言語聴覚士として必要な言語聴覚障害学の隣接学問に関する知識を学び統合的に理解する。
(2) 汎用的能力
①対象者とその背景の情報を分析し、対象者個人への支援とともに、言語聴覚療法の対象者を支える社会の問題解決を論理的に行うことができる。 ②言語聴覚障害学に基づいた知識技術を再統合し、対象者を主体としたアプローチが実践できる。
(3) 態度・志向性
①幅広い教養と仏教精神による思いやりの心を持ち、言語聴覚障害学という専門性に基づいた高いコミュニケーション能力を習得する。 ②言語、音声、聴覚、コミュニケーション、摂食・嚥下などに障がいのある人たちが、豊かで質の高い生活を送れるようにするため、障がいについての専門知識や訓練・指導を行うための専門性の高いスキルを習得する。
(4) 統合的な学習経験と創造的思考力
①医療、介護、福祉、教育の現場で言語聴覚士としての専門知識・スキルに基づいて、障がいのある人たちの多様なニーズに対応できる実践力を習得する。 ②言語聴覚士は障害のある人たちを全人的に治療していく必要があり、言語聴覚療法領域のみに留まらず、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、臨床心理士などとのチームワークが不可欠となる。そのため、チームの一員として、障がいのある人たちを支えるという実践力を身につける。

<p>(1) 建学の精神教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会に生きる女性として思いやりの精神をもって、社会とかかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、仏教の人間観及び京都光華の学びを置く。
<p>(2) 基礎・教養教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な市民性の涵養や日本文化への理解をはじめ、幅広い知識と教養を身につけるために、必修科目及び複数領域にわたり選択科目を置く。 ・仏教精神に基づいた社会福祉専門職の養成を行うため、本学の校訓である「真実心」への理解や社会生活者としての倫理観および人間理解などを学ぶ科目群を置く。
<p>(3) 専門基礎教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この科目区分は、「人間と社会」、「医療と福祉」に分かれる。言語聴覚専門分野として習得し、人間をトータルに理解するための科目が、1年生次から3年次で修得できるために、必要な科目群を置く。 ・「人間と社会」では、人間として心身ともに健康な暮らしについて、個人および集団の視点を踏まえて、統合的に人間を捉えられることを目指すに必要な科目群を置く。 ・「医療と福祉」では、社会保障制度や法規を学び、医療が社会とどのように繋がっているのかを学ぶことを目指すために必要な科目群を置く。
<p>(4) 専門教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この科目区分は、「言語聴覚療法の基礎」、「言語聴覚療法の展開」、「言語聴覚療法の応用」、および「言語聴覚療法の発展」に分かれる。 ・「言語聴覚療法の基礎」では、「臨床医学総論」、「臨床基礎医学」、「言語聴覚障害学概論」「聴覚障害学概論」など、臨床医学と言語聴覚障害学の基礎を学ぶことを目指すために必要な科目群を置く。 ・「言語聴覚療法の展開」では、「臨床医学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「失語症Ⅰ・Ⅱ」、「高次脳機能障害Ⅰ・Ⅱ」、「言語発達障害学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「発声発語障害Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」など、基礎知識の上にさらにさまざまな分野の専門的知識を学ぶことを目指すために必要な科目群を置く。 ・「言語聴覚療法の応用」では、「言語聴覚障害診断学演習Ⅰ・Ⅱ」「失語症演習」、「高次脳機能障害演習」など、基礎と展開で学んだ知識を演習で実際に使うことを学ぶことを目指すために必要な演習科目群を置く。 ・「言語聴覚障害学の発展」では、「言語聴覚障害学特論」、「言語聴覚障害実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「卒業研究」、「専門ゼミⅠ・Ⅱ」、「臨床実習」など、各種特論・実習・研究が設置され、言語聴覚士として社会に出ていくために必要な知識と力を獲得することを目指す。
<p>カリキュラムの実施方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題発見・解決力やチームマネジメントを高めるために PBL (Problem-based learning) や AL (Active learning) の授業方法を取り入れる。 ・ディプロマポリシーの能力形成を促す評価となるよう、学期末テストにとどまることなく、レポートや小テストなどで定期的に理解度、習熟度を確認を行い、その結果を学生にフィードバックするとともに、多面的な評価を行う。 ・クラスアドバイザー及び同様の役割を担うゼミ担当教員は、定期的に学生と面談を行い、履修状況、進路希望等を確認し、適切な履修指導を行う。要支援学生については、関係部署と連携し、修学のための適切な対応を行う。 ・自主的、自立的な学習に欠かせないセルフマネジメント力を高めるために、予習・復習を奨励する。また資格取得に向けた課題の提出、対策授業等の学習支援を行う。 ・専門分野の科目群については、知識と技術の理解と習得に向けて講義と演習、実習を関連付けながら学ぶ。言語聴覚療法の臨床実習では、実習施設との連携・協力体制の強化により、効果的な学習を図る。

入学者受け入れ方針
<p>本専攻では、仏教精神に基づいた深い人間理解と人間尊重の価値観を基盤とし、言語聴覚士に必要な知識と技術を学び、社会貢献ができる女性を育成する。</p> <p>そのため、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに定める教育を受けるために必要な、次に掲げる基礎的な知識・技能及び関心・意欲を備えた女性を求める。</p> <p>このような入学者を適正に選抜するために、教科（国語、英語）の試験、小論文、面接など多様な選抜方法を実施する。</p>
（１）知識・技能
<p>1. 高等学校までの「国語」、「英語」等の学習を通じて、言語聴覚士を志す基盤として必要なコミュニケーション能力と姿勢を備えている。</p>
（２）思考力・判断力・表現力
<p>2. 建学の精神である「思いやりの心」を持ち、障害児・者を理解し、寄り添うことができる。</p> <p>3. 言語聴覚士として必要な知識・技術の習得に、熱心に根気よく取り組み、言語聴覚障害の幅広い課題について、関心がある。</p>
（３）主体性・多様性・協働性
<p>4. 言語聴覚士としての能力を習得し、言語・聴覚・嚥下等に障がいのある人々の機能の回復・獲得をはかり、個々の状態に応じたコミュニケーション能力の向上と社会参加を支援しようとする意欲がある。</p>

【こども教育学部 こども教育学科】

ディプロマポリシー

卒業認定の方針
学校教育・保育に携わるに相応しい多角的な視野、深い思考、根拠をもった判断・表現ができる。また、教員・保育者として主体的に行動できるようになったうえで、学則に定める卒業要件を満たした者に学位を授与する。
(1) 知識・理解
① 教員・保育者に求められる教養が身に付いている。 ② 教員・保育者に必要な専門的知識や教育・保育技術が身に付いていて、今日的な課題（保育英語・小学校英語や ICT 機器の利用など）にも対応可能である。
(2) 汎用的能力
① 育ちゆく幼い者への共感と温かな眼差しをもって子どもと向き合い、一人ひとりを大切にその育ちを支えることができるとともに、問題解決力を身に付けている。 ② 教員・保育者に必要な協働的なコミュニケーション能力を備えている。
(3) 態度・志向性
① 建学の精神である「真実心」を体得し、これを「思いやりの心」、「向上心」、「感謝の心」として教育実践・保育実践に活かすことができる。 ② 教職・保育職に対する責任感と情熱をもち、自らも生涯学び続け、成長し続けようという意欲をもっている。
(4) 統合的な学習経験と創造的思考力
① 教員・保育者としての教養と専門知識・技術を身に付けていて、これらを一人ひとりの子どもの育ちと学びの支援・指導に統合的に活用できる。 ② 教育・保育上の一つひとつの問題や課題を子どもや自分自身の成長の機会と捉え、主体的・創造的に取り組むことができる。

<p>(1) 建学の精神教育</p> <p>① 現代社会に生きる教員・保育者として思いやりの精神をもって子どもや保護者と関わり、社会貢献を志向する価値観や態度を身につけるために必要な科目を置く。</p>
<p>(2) 基礎・教養教育</p> <p>① 健全な市民性の涵養や日本文化への理解をはじめ、幅広い知識と教養を身に付けるために、必修科目及び複数領域にわたり選択科目を置く。</p> <p>② 情報リテラシー、日本語活用力、英語による基礎的なコミュニケーション力を身に付けるために、それぞれ必修科目を置き、演習形式で授業を行う。</p>
<p>(3) 専門基幹教育</p> <p>① 子ども一人ひとりの発達段階や個性を理解し適切な支援をなすうために、教育・保育や子どもの発達に関する基礎理論を学ぶための科目を置く。</p> <p>② 子どもの興味・関心をふまえた授業や保育を計画し実践できるよう、各教科や保育内容各領域の基礎を学ぶための科目を置く。</p>
<p>(4) 専門発展教育</p> <p>① 教員・保育者としてより主体的・創造的に教育・保育をなすうよう、教育・保育の発展的な理論を学ぶための科目を置く。</p> <p>② 子どもの視野を広げ、活動を通じての学びを促進することができるよう、各教科や保育内容各領域の指導法を学ぶための科目を置く。</p> <p>③ 現代的な教育・保育の諸課題に対応するための科目を置く。</p> <p>④ 学習成果を統合し、問題解決に適用することを学ぶための科目を置く。</p> <p>⑤ 教育・保育実習の準備や実施のための科目を置く。</p>
<p>カリキュラムの実施方針</p> <p>① 集団で協力しながら問題を発見し、解決する力を高めるために PBL(Project-based Learning) やアクティブ・ラーニングの授業方法を広く取り入れる。</p> <p>② クラスアドバイザーを担当する教員は、定期的に学生と面談を行い、履修状況、進路希望等を確認し、適切な履修指導を行う。</p> <p>③ 教育・保育現場とのつながりの中で教育・保育理論の理解を深め、学習への動機を高めるよう、教育課程内においても、課外の活動においても、現場体験・子ども体験の機会を十分に提供しよう努める。</p> <p>④ 理解度や習熟度の評価は、ディプロマポリシーが目指す諸能力の形成を促進するものとなりうるよう、学期末テストにとどまることなく、レポート、小テスト、実技テスト、作品提出、模擬授業や模擬保育などの中から科目により適切な評価方法を加えて複合的に行い、その結果を適宜学生にフィードバックする。</p>

入学者受け入れ方針
<p>本学科では、仏教精神による慈しみの心を以て子どもと向き合い、子どもを深く理解してその育ちを指導・支援できる教員・保育者を育成します。</p> <p>そのため、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに定める教育を受けるために必要な、次に掲げる基礎的な知識・技能及び関心・意欲を備えた女性を求めています。</p> <p>このような入学者を適正に選抜するために、教科（国語、英語）の試験、小論文、面接など多様な選抜方法を実施します。</p>
（１）知識・技能
① 高等学校までの学習を通じて、人文・社会・自然・芸術・体育に関わる基礎的知識や技能を幅広く身につけている。
（２）思考力・判断力・表現力
② 教員・保育者になるための勉学すなわち、教育・保育に関する理論的知識・実践的技能の獲得に強い意欲をもって努力できる。
③ 教員・保育者として自分を高めるために常に学び続けようとする意欲がある。
④ 他者と協働すること、リーダーシップをとること、さらには協力者となることの重要性を理解し、そのためにコミュニケーション力を高めることに関心と意欲がある。
（２）主体性・多様性・協働性
⑤ 子どもが好きで、その成長に貢献することを強く希望し、教育・保育の仕事に使命感をもって臨むことができる。